

概要：物体の位置・姿勢をマーカやセンサを貼り付けずに高速で認識した上で、そこに映像を投影して見た目を変化させることや、カーテンのような連続的に変化する物体に対して、その対象物体固有の色や模様を打ち消して任意の映像投影を可能にする技術を開発しました。



(a) 元画像



(b) カーテンの模様の影響（補正なし）



従来手法

提案手法

(c) 光学的補正直後の様子



従来手法

提案手法

(d) カーテンが揺れた時の様子



(e) 手でカーテンを揺らした直後



従来手法

提案手法

(f) 揺れが収まった後

マネキンの表情や皮膚感を投影

揺れるカーテンをスクリーンとして投影

想定応用先等：空間演出、AR、娯楽、医療ナビゲーション
ホームシアター、服飾系ディスプレイなど